

学校規模適正化推進計画「地域説明会」の実施状況について（報告）

1. 小田小学校区（甲田町：小原地域振興会）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 8 日（火）19:30～21:30
- ② 参加人数：27 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
小田小学校の P T A 説明会で出された質疑内容を説明して欲しい。	要旨を説明。
変則複式学級とは。	複式学級の基本は、低学年の 1・2 年生、中学年の 3・4 年生、高学年の 5・6 年生の組み合わせ。基本の組み合わせでない、2・3 年生、4・5 年生、1・3 年生などの組み合わせを変則複式学級という。 現在は、県制度に変則複式学級の解消のための教員加配措置があり、その措置により、変則の場合、単独の学級になっている。
高宮町で提案を受けた「集合学習」についての、研究・協議状況は。	川根小学校で「集合学習」の提案を受けた。先に統合ありきではなく、少人数による課題を克服するための提案。 「集合学習」ではなく「交流学习」として保護者会に提案した。小規模校の児童に大人数の中で切磋琢磨する環境を取り入れていこうというもの。5、6 年生で行っている交流を 4 年生まで伸ばし、学校を巡回して合同学習を行うもの。体育や音楽を 1 学期に 1 回程度実施し、今年から試行する。 学校規模の適正化とは別に考えている。

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
複式学級の解消を目的に統合されることはやむを得ない。	統合校を新築することは現在の財政状況では厳しく、現在ある学校を統合校としたい。

統合校を選考した評価の項目は。	評価した項目は、通学、校舎の状況、災害面など様々な項目で評価した。 甲田町では、5年後の児童数などは小田東小学校が良く、校舎敷地などは甲立小学校が良いが、総合的に見て甲立小学校が良いと判断した。
安全面について、耐震性だけが重要視されているのではないか。地震は心配していないが、水害は毎年起きる。単に耐震化工事の必要のない学校を選考したのではないか。甲立小学校は水害の危険性が高い。	安全面については、耐震性、災害、通学路の安全を項目に入れている。地震はいつ来るか解からないし、一気に来る。水害は雨量により対応準備ができるようになってきている。河川堤防の改良が進み、決壊して浸水するケースより、本流が増水したことにより、支流の水が流れ込まないことによる浸水ケースが多くなっている。 統合校は災害面を含む総合評価で決定した。
甲立小学校の水害に対する対策や今後の方針はどうか。	統合校が完全であるということではない。総合的に判断したもの。統合校が決まり、課題があるなら検討していく必要がある。水害対策については、地域全体の課題であり、地域全体の課題として考えたい。
評価項目と甲田町内3校の対比を具体的に説明して欲しい。	評価項目と3校の評価について説明。 別表の通り
子どもが増えて欲しいが、現実に子どもの将来を考えると、統合もやむを得ないと思う。 この計画書に中学校の統合があるが、中学校も計画期間中に行うのか。	この計画書においては、中学校は基本的考え方・方針を記述している。中学校の統合には通学という大きな課題があり、条件整備が必要である。 この5年間は小学校を具体的に進め、小学校の目途がいたら中学校の配置計画に入りたい。
様々な課題はこれから解決していくことになろうが、乱暴な実施をしないで欲しい。保護者も意見を出し協議していきたい。	計画は円滑に進めていきたい。地域・保護者と一体となり協議を進める。

【説明会に関すること】

意見・質問	回 答
保育所未就園の保護者に対して、	地域の説明会に参加して欲しい。

この説明会に対する個人通知をしたほうが良いのではないか。	個人通知は、住民基本台帳を閲覧する必要があり、個人情報の保護の面で難しい。
統廃合については、やむを得ないものとは考えるが、情報を新聞で知った。市民を大事にして欲しい。決まったことを情報発信するだけでなく、早くから市民に知らせて欲しい。	市の広報紙により、計画についての方向等は随時お知らせしている。市広報には様々な情報が載っているのでご覧いただきたい。
説明会を保護者に先に行うのはおかしい。5年過ぎると児童の大半は卒業する。PTAではなく住民が先ではないか。	将来を考えるにあたっては、現在いる人が将来のことも考えて判断することが第1。今の保護者に説明して、将来のことも考えて協議させてもらうべきと考えている。なお、保育所保護者に対してもこの地域説明会の案内をさせてもらっている。

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
子どもも少なくなり統合もやむを得ない。ある程度の人数の中で教育された方が、社会性が身につく。統合した場合、統合校より他町の小学校が近くなるが、他町の小学校に通学できるか。	通学区域を取り外して欲しいという要望に対し、現在通学区域の弾力化を行っている。子どもは地域で生きている。小さい時は地域に根付くことが大切。判断力のつくようになる小学校5年生と中学校に入る時に、選択ができる様にしている。この制度を利用してスポーツや音楽に励んでいる子ども達がいる。なお、いじめを受けるなどの特例措置はある。
通学についてスクールバスとなっているが、バスを運営する場合、委託か直営か、運営費用について保護者負担はあるのか。	通学については、生活交通の利用かスクールバスでの対応を考えているが、確定はしていない。併せて、遠距離通学の助成についても、市内統一した助成制度を作りたい。
統合校まで遠いので、必ずスクールバスを出して欲しい。	要望として傾聴。

【跡地利用に関すること】

意見・質問	回 答
学校統合は財政問題が原因。財政問題が統合を早めている。廃校になる校舎については耐震工	子どもの教育環境を整備するため、この計画を作成した。 体育館については、地域の社会体育のため

事をせず、早く統合して、少しでも財源を残す必要がある。	耐震工事を行う予定。校舎については、利用見込みがないものは解体していく。
学校がなくなることは寂しい。地域として跡地をどう活用するかを考えたい。いつまでに、どこに申し出ればよいか。	今年度は市の方針を周知する期間として取り組んでいる。 小学校は地域と密着しており、住民の思い入れもある。跡地を有効活用したいということであれば、耐震化対策もあり、できるだけ早く、教育委員会に相談して欲しい。地域で十分に話し合っていたいただき、ご意見を聞きながら前に進んでいきたい。

【学校統合の具体的事項に関すること】

意見・質問	回 答
教員の激変緩和措置も、期間で定めるのではなく、子ども達のため必要と思われるまで取り組んで欲しい。	計画の推進に当たっては、子ども達の教育を大事に考えていく。 教職員については、1学級に1名を基本的に県が配置する。現行の統合に関する県制度として、統合前1年間と統合後1年間は、加配措置がある。この後は最長3年間非常勤講師を派遣する制度が現在ある。 また、統合後子ども達が新しい集団になじむため、元の小学校の教師をバランスよく配置することが通例である。 市としても30名以上の大きな学級には、きめ細やかな指導体制を取るため非常勤講師を配置している。
児童クラブについてはどうなるのか。	基本は、統合校の近くに必要な児童が通うことができる児童クラブができるものと考えるが、統合の具体的事項であり、今後保護者や担当課と協議していくこととなる。
特別支援学級についてはどう考えているか。	特別支援学級についての考え方は変わらない。子どもにとって一番良いと思われる教育課程を用意する。県の職員配置の問題もあり県と協議しながら対応したい。

【その他】

なし

別表 甲田町内の3小学校比較表

評 価 項 目		各 学 校 の 評 価		
		甲立小学校	小田小学校	小田東小学校
5年後児童数	計画の最終年度児童数			高い
青年人口	将来の児童数見込み	高い		高い
学校位置	町域全体から見た位置		低い	
	公共的施設等との関係	高い		高い
通学	5年後児童の総通学距離			高い
	通学路の安全	同等	同等	同等
学校施設	校舎の新しさ	高い		
	校舎耐震性	高い		
	教室面積	高い	高い	高い
	校舎全体面積	高い		
	体育館の新しさ			高い
	体育館面積	同等	同等	同等
	プールの新しさ	同等	同等	同等
敷地条件	敷地面積	やや高い		
	グラウンド面積	やや高い	高い	やや高い
	敷地の形状	高い	高い	やや高い
自然環境	騒音・日照等の環境条件	高い	高い	やや高い
	災害に対する安全	浸水区域	土石流区域	土石流区域

2. 郷野小学校区（吉田町：郷野地区振興会）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 13 日（日）13:30～15:00
- ② 参加人数：28 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
「集合学習」とは。	川根小学校で「集合学習」の提案を受けた。先に統合ありきではなく、少人数による課題を克服するための提案。 「集合学習」ではなく「交流学习」として保護者会に提案した。小規模校の児童に、大人数の中で切磋琢磨する環境を取り入れていこうというもの。5、6年生で行っている交流を4年生まで伸ばし、学校を巡回して合同学習を行うもの。体育や音楽を1学期に1回程度実施し、今年から試行する。学校規模の適正化とは別に考えている。
学校の経費負担の内訳は。教育の質を保つためには、複式学級にしないほうが良い。児童数により複式学級にするというのは、少人数に対しては、教師一人を付けるのは無駄といっているのか。	教職員の人件費は県が負担し、建物の経費は市が負担する。学級を決定するのは県で児童数により担任の数が決まる。予算にも限りがあるので、学級が成り立つ児童数をきめている。
郷野地区は 54 号線沿いで、広島から人が来るチャンスが残っているが、学校がなくなれば負の連鎖に陥る。財政的な問題で統合ということならば、財政上仕方なく、義務教育としてのサービスをどこまで上げてもらえるかという話だが、財政上でないなら、適正規模は〇人だが少々我慢しようかという事になる。行政として義務教育に投資をして欲しい。	財政問題ではなく、教育効果を高めるための視点で考えた。小規模校にもメリット・デメリットはある。検討委員会でも視察に行かれたが、勉強にも人間関係にもある程度の人数が必要であるとの結論であった。1対1で教える授業もできるが、子供同士で議論して回答を見つけていくような切磋琢磨が必要ということであった。将来は、市内7校で複式学級が心配される。教育効果を高める環境整備として規模の適正化計画を立てた。
変則複式学級に対する県の加配措置とは。	隣り合う学年で一定規模にならない場合は、2学年で複式学級を組むことになる。複式学級は1・2年生、3・4年生、5・6年生の組み

	<p>合わせが基本。単元や学習内容、発達段階から決められている。この基本のくくり以外を変則複式学級という。この変則複式学級には、現在は、県が担任の加配措置を行い、複式学級を解消し単式学級になっている。郷野小学校の28年度は変則複式学級で、加配措置により解消されるが、次の年はこの子ども達は1学年上がり複式の基本組み合わせになり、複式学級となる。</p>
<p>統合し通学距離が長くなると、親の負担が増え、子どもの安全が脅かされるようなら、教育効果が若干下がっても仕方がない。教育に投資し教員を配置してもらいたい。義務教育としてのサービスであるので、住んでいる所により「しかたがない」ということではおかしい。</p>	<p>意見として傾聴</p>

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
<p>計画期間が5年間で、初年度は説明期間とのことだが、残りの期間の年次計画は。</p>	<p>合意が得られれば、24年度から具体的協議に入らせていただきたい。具体的な協議については、美土里町の例を見ても2年程度かかっている。</p>
<p>計画の最終年度に、市内全ての地域で歩調を合わせての統合か。前倒しもあるのか。</p>	<p>全市で歩調を合わせての統合が好ましいとは考えているが、地域により事情が様々。早く統合協議が済んだところから実施するものと考えている。</p>

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
<p>通学について、「通常4km、40分以内」となっているが、4kmは7歳の子どもには酷である。時速6</p>	<p>距離については、交付税で算出していた基準から引用している。市内にもこれ以上歩いてくる児童はたくさんいる。現在学校に</p>

<p>kmで歩く計算になる。どこから基準が出たのか。2.5 km、3 kmが適当ではないか。</p>	<p>より通学方法や通学費の助成が違う。これは、学校統合をした時の統合条件によるもので、バランスが取れていない。今回の全市的な学校統合を区切りとして、白紙に戻して見直したい。スクールバスについても、通学費の助成についても、まだきめていない。全く歩かないで学校に来れるようにすることは考えていない。</p>
<p>不審者対策や子どもの安全面から見て、4 kmも歩かせられない。事件も凶悪化して、アメリカ化している。アメリカでは100%親の送迎かスクールバスである。日本もその方向に行かざるを得ない。</p>	<p>今は、スクールバスの目安について回答できる段階ではない。現在児童を地図に落とし検討をしている。 通学方法、通学費補助金の統一については、当然考えるべき課題であると承知している。</p>

【跡地利用に関すること】

意見・質問	回 答
<p>郷野小学校の耐震診断の結果は。耐震性がないなら、何にも使えないのか。</p>	<p>郷野小学校は耐震性がない。木造校舎を耐震改修することになれば、形を全く変えるようになろう。跡地利用については、地域の意見を聞き進めるが、利用されるならば少々の補強をすることも考えざるを得ない。</p>

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし

3. 吉田小学校区（吉田町：吉田地区振興会「自治懇談会」において）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 11 日（金）19:00～21:10
- ② 参加人数：59 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

なし

【方針に関すること】

なし

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

なし

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし

4. 船佐小学校区（高宮町：上佐一心会役員会）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 18 日（金）19:30～20:30
- ② 参加人数：7 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
規模適正化計画の児童・生徒数に、私学への流出数は加味しているか。	計画の児童・生徒数には、加味していない。小学校入学時には私学流出はほとんどないが、中学校進学時には、市内では多くて 20 人前後が流出している。
小学校がなくなるとまちが寂れる。6 町の合併においても寂れてきた。小学校を残して欲しい。	学校が地域の活動センターになり、にぎわいを作り出していることは理解している。検討委員会においても、こうした議論がされたが、子ども達にとって何が良いかを検討されて、規模適正化の結論となった。跡地の活用については、地域の皆さんの意見を聞かせていただき、有効に活用する方法を考えていきたい。
複式学級になる基準は。	小学校 2 年生以上は、隣り合う学年の合計が 16 名までが複式学級となる。来年度以降船佐小学校では複式学級が続き、来原小学校では平成 29 年度には複式学級となり、川根小学校も複式であり、平成 29 年度には高宮町 3 校全てに複式学級があることになる。

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
児童が多いほうが良いとも限らない。	きめ細やかで手厚い教育ができるなど複式学級が全て悪いということではないが、1 人の教員に 2 つの学年が教わるという児童の状況を改善したいと計画を立てた。小規模校のメリットもあるということを重々承知しながら検討して、複式学級を解消する必要があると判断した。

小中一貫校は検討されたのか。	小中一貫校とは、校長が1人であるなど、同一敷地内でなければ効果が出ない。現在統合校として既設の校舎を活用する計画であり、市教委では、小中連携教育を進める体制作りを行っている。
----------------	---

【説明会に関すること】

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
通学条件における、遠距離の児童に対する具体策は。	市全体の制度として考えたい。距離については4kmを目安としている。公共交通機関・お助けワゴンなどと併用してスクールバスで対応したい。現在市内の通学状況を調査検討している。準備委員会で意見をいただきながら協議して行きたい。 なお、遠距離通学助成についても市内統一制度に切り替えたい。

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし

5. 川根小学校区（高宮町：川根振興協議会）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 19 日（土）19:00～21:15
- ② 参加人数：18 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
川根地域は中学校の統合を経験している。教育は教育、まちづくりはまちづくりと、別の土俵で議論すべきで一つの土俵で考えるべきではない。地域住民として、子を持つ親の立場から意見を出している。保護者がどう考えているかを聞く必要がある。	意見として傾聴
何をもって合意と判断されるのか。	住民投票してもらおうとかは考えていない。統合して欲しいとの意見が強いようだ、準備委員会を設けて協議いただくことになる。
川根地域では将来の担い手をどうするかという観点で、お好み住宅を作ってきた。建てた当初に川根小学校に通っていた子ども達が親になっている。当時も複式学級であったが、その親から複式学級はいけないという声は出ていない。保護者・地域から統合しようというまでは統合すべきでない。逆に、川根に、高宮に住んでみようというまちづくりが必要である。	意見として傾聴
住民自治の観点でまちづくりをしているのか。	川根地域を見本にしながら、地域でも活動している。川根小学校についても、地域で支えてもらっている。教育についても、家庭・地域・学校が一つの方向で子育てをしていくように進めている。
川根小学校では、条件厳しい中、教育効果を上げてきたと考える。	川根小学校が教育効果を高めていないとは考えていない。ただ、先生にも努力しても

このままでも教育効果は下がらないか。	らっている。教師も努力しているし、地域も一体となり子育てをしてもらっている。
5年後の児童・生徒数で計画を策定されているが、中学校進学時に市外へ進学する生徒が多くいる。中学校2校になれば、通学時間などもあり、市外へ進学する生徒が多くなると思うが、こうした数を加味しているか。	中学校が2校になると通学の課題がある。もう一つ進路希望もある。地元の子どもは地元に進学してもらいたいが、本人希望もありその数を出すのは難しい。中学校の統合は、指摘いただいた課題もあり簡単にはできないものと考えている。

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
中学校が市内2校となっている。理由の一つにあるクラブ活動の活性化について見ると、市内2校の競い合いでは効果は薄いし、通学距離が長いという理由で寮に入らざるを得ないのも疑問である。	現在の姿を見ると、部員が少なく競争なしで大会に出ている状況もある。統合すると部員も多く、選手として出て行く過程が違う。中学校の統合においては、通学距離により部活動もできなく、寮も必要となる。通学などの環境整備に課題があり、中学校の統合は小学校の後にした。
中学校の統合については、少なくとも5~10年かかると考えてよいか。	そのようになるだろう。
私の子どもは、計画の5年後には小学生で、その5年後には中学生になる。2回も統合を経験させたくない。	年齢によってはありえる状況である。中学校の統合については、他市の例を見ても時間を要している。
過去、川根小学校で小規模校の研究大会があったが、小規模校は大変良いとの結論だった。小規模校の教育の質・効果について議論されているのか。単に児童数をもつての進め方か。	複式授業・複式学級そのものを否定するものではないし、小規模校の全てを否定するものでもない。教育条件として複式授業は圧倒的不利ではないか、また、メリットもあればデメリットもある点で計画策定した。7校/13校が複式学級のある学校になっていくことを想定して、早い段階で提案した。なお、現在の教育環境の中で、教師も精一杯取り組んでいるし、子ども達も伸びている。
圧倒的に教育条件が不利とは。	学習指導要領は発達段階に応じて学習内容

	<p>が定められているが、複式授業では、1人の担任が、2つの学年に、同一の空間で、同一の時間内に、半分ずつ授業を進める。複式授業のメリットとしては、自学自習の習慣、上学年が下学年をリード、リーダーシップの醸成とかあるが、複式授業においては教職員・児童とも熟練が必要となる。2学年に担任が1人というのが象徴的である。</p>
<p>文科省が複式学級を認めている以上は、先生の努力で解決して欲しい。</p>	<p>教師への負担が大きいということは、子ども達にとってもデメリット。川根小学校においては、以前から複式授業で、子ども達が先輩の姿を見ながら学んできた歴史がある。教職員も複式授業を熟練してきた。当然教職員は現実の中で最大限の努力をする。</p>
<p>先日の中学校駅伝県大会において、6区間のうち陸上部は2人で、2人以外は他のクラブから借りて出場していると聞いた。指導者・先生によりクラブの衰退が決まるようではいけない。中学校教育をどうするかが深刻ではないか。</p>	<p>意見として傾聴</p>
<p>規模適正化には3つのポイントがある。①行財政改革②教育面③地域性 の3点のバランスをどう選択していくかが地域の課題。教育面については、川根小学校においては、他校の子どもに負けない教育をつけてもらっている。小学校の一場面を見れば条件が不利かもしれないが、成長して大人になった時どういう人間になるかを見るのが教育である。地域性の面では、若者住宅などの行政の一貫性にも配慮する必要もあるし、住民自治のまちづくりで教育力を上げてきたのも事実である。財政の面で、高宮町3校がそのまま残る場合、3校が統合する場合、川根が残り</p>	<p>財政的にみれば、学校数・学級数に応じて地方交付税が交付される。財政面で学校統合の必要性を訴えているのではない。教育効果を高めるためには、ある程度の学校規模・学級規模が必要ということで適正化計画を策定した。教育効果を高めるためには、少人数だと良く伝わるというだけではなく、子ども同士の切磋琢磨、生きる力を向上させるためにも、ある程度の規模が必要であるという判断から計画を策定した。教育だけではなく、まちづくり、跡地利用、財政課題などもあり、市長をトップにした体制を作っている。</p>

2校が統合する場合の3ケースの財政を示して欲しい。	
統合した場合、どういう教育方針・ビジョンになるのか。統合が今後のまちづくりのビジョンの分岐点になる。統合後の教育方針がどうなるかプランをペーパーで示して欲しい。	統合校の教育方針・ビジョンは、これまでの学校の伝統や、地域の願いなどを聞きながら、地域・保護者代表などで準備委員会を作り議論していくため、現在ペーパーで示せる段階ではない。

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

なし

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし

6. 小田東小学校区（甲田町：小田東地域振興会）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 20 日（日）11：00～12：15
- ② 参加人数：45 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

なし

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
甲田町では、3 小学校が統合して現在の甲立小学校を利用することになっている。生徒数などでは小田東小学校が一番多いが、なぜ甲立小学校になったのか。評価した項目一覧を提示して欲しい。	適正化計画においては、市内の 4 町で学校統合がある。現在の財政状況で、4 校とも新設していくことは不可能であり、既設校を活用することとした。統合校を選ぶ場合、市内共通する評価項目を設定して、総合的に評価し決定した。耐震化の済んでいる校舎をできるだけ使いたい。 (評価項目一覧については、小田地域振興会での質疑を参照ください。)
甲田中学校では 38 人 1 クラスの学級があり、教室に机が一杯で、窮屈な例がある。統合小学校でこうした状況になると、教室が危ない場所になる。クラス編制について緩和措置は取れないか。	学級編制の基準は国の編制基準によりきめられ、これにより教職員が配置される。現在多人数学級に対しては、市が独自施策として非常勤講師を加配措置している。統合小学校において 39 人の学級も予想されるが、現段階ではこうした加配措置で対応したい。なお、国においても編制基準の緩和措置等の動きもある。

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
スクールバスについて、身体に障がいのある児童が利用する場合、補助員はつくのか。	遠距離通学に対しては、公共交通機関やスクールバスでの対応で考えている。身体に障がいのある児童については、個別に協議

	させてもらい通学方法を検討していきたい。
小学校では、4 km以内は徒歩通学となるのか。	今回の計画では基準を 4km としているが、市内全域の状況を見ながら検討したい。
甲田町にも、児童が少なく公共交通機関も不十分な地域がある。児童が一人になっても、スクールバスは来てもらえるのか。	基本的な考え方として、自宅から学校までの全ての道程をスクールバスで対応する考え方はない。 公共交通機関のない地域については、幹線道路などをスクールバスで検討したい。

【跡地利用に関すること】

意見・質問	回 答
体育館・グラウンドがなくなると、大きな災害が発生した場合の避難拠点がなくなる。また地域で活動する場合の場所がなくなる。	小学校の体育館・グラウンドについては市民のスポーツ活動、地域活性化等に活用されていることは理解している。現在の考え方として、体育館は地域の社会体育、地域活動に利用いただけるよう、耐震化を行いたい。校舎については、利活用計画のないものは解体したい。準備委員会において、地域・保護者の意見をいただきながら検討していく。
跡地活用を協議する準備委員会には、教育委員会以外の部局も参画されるのか。	小学校の統合に承諾がいただけるかが最初のスタートである。跡地活用については、地域の総力を挙げて知恵を出していただくことが最良である。市としても総合的な取り組みとして対応したいと考えている。

【学校統合の具体的事項に関すること】

意見・質問	回 答
小学校は地域の文化・伝統の拠点であった。統合して広範囲になれば、学校と地域の文化・伝統のつながりが薄れる。また、通学における地域の見守りにも課題が残る。	小学校は地域の皆さんに支えられ見守っていただけて成り立っている。地域に根づく伝統文化、伝統に根ざした教育課程の伝承は、重要でありかつ難しい課題。例えば、クラブ活動のような形で継承したり、教育課程外で地域の方に指導してもらい継承している例がある。具体的には、準備委員会で検討していくことになる。地域に根ざし

	<p>た教育活動や体験活動については今後とも取り組んでいく。</p> <p>通学における安全確保については、最優先に考えている。通学路を整備する必要もある。</p>
--	--

【その他】
なし

7. 刈田・根野小学校区（八千代町：八千代町地区4地域振興会）

- ① 開催日時：平成23年11月25日（金）19：00～20：15
- ② 参加人数：32名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
小学校の保護者会での質疑内容は。	要旨を説明。
この説明会に教育委員会だけが来ているが、今後、他の部局も参画されるのか。	今年度は、市長をトップに策定した適正化推進計画を、保護者・地域の皆さんに説明する年度として教育委員会で回っている。 今後具体的に準備委員会での協議になれば、跡地活用・通学路・児童館など様々な分野での協議となり、市長をトップに市長部局・教育委員会一緒になり協議していく。

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
準備委員会で、委員の意見を聞きながら具体的な事項をきめていくと理解したが、市民の意見を反映させていくためにも、委員が決まったら公表して欲しい。	準備委員会の委員には、案としては、PTA保護者会や地域振興会から委員に出ていただくように考えている。 皆さんを代表する委員であるので、公表したいと考えている。
複式学級はどんな実態なのか。	例えば3・4年生が同じ教室に入り、担任1人で授業をする。同じ教室に3年生の塊と4年生の塊を作り、授業時間を半分ずつ、先ずは3年生を指導して課題を与え自習をさせ、後に4年生に移って指導するような形。 現在刈田小学校では、3・4年生と5・6年生が複式学級であるが、この状態は26年度まで続く見通しである。 複式学級は、自学自習の習慣がつくとか上学年にリーダーとしての資質が養成されるとかのメリットがあるが、先生が直接指導する授業が半分しかないことや発達段階が

	違うことにより下学年に負担がかかるなどデメリットもある。
--	------------------------------

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
様々な個人負担があると思うが、通学に関し個人負担の増額はあるか。	遠距離通学に関しては、4kmを目安として、公共交通機関やスクールバスでの対応を考えている。通学費の助成制度については、現在6町でバランスが取れていないため、市内統一の助成制度を検討している。新しい学校に伴う制服負担等も含めて、準備委員会の中で意見を聞き検討していきたい。

【跡地利用に関すること】

意見・質問	回 答
学校跡地の利活用について、まだ具体的に決まっていないのか。	まだ決まっていない。学校跡地の利活用については、地域の皆さんの意見を聞きながら地域の活性化につながる計画を考えたい。体育館については、地域の社会体育で利用していただいているので、耐震化を行い地域で利用いただけるように考えている。

【学校統合の具体的事項に関すること】

意見・質問	回 答
刈田小学校区から通学するとなると通学距離が長くなる。低学年は下校時間も早い。現在は児童館に通っているが、統合したらどうなるのか。	現在、下校しても家庭に保護者がいない児童のために児童館がある。学校統合された場合は、基本的な考え方としては、統合校の近くに希望される児童が入所できる児童館が整備されるものと考えている。具体的には、準備委員会で保護者の意見を聞きながら検討していく。

<p>小学校プールについては廃止するのか。夏休みにおける利用について、遠くなるしバス便も少ないので、配慮してもらえるのか。</p>	<p>八千代町には現在プールが3つある。教育委員会としては1町1プールで将来的に維持管理していきたい。B&Gプールが一番整備され指導員もいるので、学校プールは廃止を考えている。</p> <p>学校体育での利用については、バスでの送迎を考えている。夏休み中の利用については、保護者での送迎が基本である。</p>
<p>児童館に通っている児童が夏休み中にプールに行くことができない。</p>	<p>児童館における夏休み中の過ごし方の工夫で考えられる面があるかもしれないので、児童館の担当部局に要望を伝える。</p>
<p>1学校1プールでないと授業に支障をきたすのではないか。要望として、1学校1プールを基本に据えて欲しい。</p>	<p>1学校1プールが最善であることを理解したうえでの考え方である。学校プールは老朽化し、維持修繕していくとなると経費もかかる。費用対効果を考えB&Gプールを活用し送迎する案を示している。準備委員会で意見もいただきながら、反映できるものは反映したい。</p>

【その他】
なし

8. 甲立小学校区（甲田町：甲立地域振興会）

- ① 開催日時：平成 23 年 11 月 26 日（土）19：00～20：15
- ② 参加人数：15 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
<p>中学校の場合、スポーツで高校に進学するケースもある。中学校の指導者に技術がない場合、基本ができていないことになる。教職員をスポーツにも配慮して採用するように配慮すべきではないか。</p>	<p>中学校におけるクラブ活動は非常に重要である。生徒指導についてクラブ活動を通して指導する面もある。</p> <p>教職員は学級数に応じて配置が決まる。今後学級数が減ってくる現状では、クラブ活動の指導を教職員だけで行うことができなくなると考える。</p> <p>中学校の統合という方法があるが、当面、スポーツ少年団の指導者や地域の外部指導者の力を借りながらやっていきたい。地域の皆さんのご協力をお願いしたい。</p>

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
<p>町内の他の振興会長と話す機会があった。「学校がなくなると地域がさびれる、跡地活用をどうするかが課題」との意見が出た。</p>	<p>元の保健所である甲田郷土館は解体、更地にして駐車場にするよう考えている。地域の皆さんの知恵をお借りしながら、跡地等が有効活用できるようにしたいと考えている。</p>

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
<p>遠距離通学の 4 km とは、どの辺まで</p>	<p>遠距離通学については、国の制度の基準で 4</p>

<p>で該当するのか。現在ある通学費の助成制度は、将来も続くのか。</p>	<p>kmとしている。各学校には統廃合の歴史があり、統合条件により通学費の補助金制度がある。現在市内統一されていないので、今回の市内全域の適正化において、全市の制度を検討したい。</p>
<p>甲立小学校の横に広い道ができた。開通すると児童の通学に危なくなる。ここは通学路になっているのか。</p>	<p>現在は通学路になっていない。通学路については、保護者の要望を聞きながら学校できめている。 この道についても、保護者の意見を聞き、学校が判断していく。通学路になった場合、引き続き地域の見守りをお願いしたい。通学路が不備な場合は、要望を出していただき一緒に検討していきたい。</p>

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

意見・質問	回 答
<p>統合されると学級数が増える。現在の甲立小学校校舎で足りるのか、新たに校舎を建てるのか。</p>	<p>現在国の学級編制基準では、小学校 1 年生だけが 35 人学級となっている。来年度は 2 年生も 35 人学級になると推測している。35 人学級になると教室が不足する。将来にわたって学級が増えるようなら、鉄筋コンクリート校舎を建てる必要も生じるが、そうでない限りは、様々な工夫をしたい。</p>

【その他】

なし

9. 船佐小学校区（高宮町：船佐小学校区6地域振興会）

- ① 開催日時：平成23年12月5日（月）19：30～20：45
- ② 参加人数：16名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
資料により、児童数の数値が4月と5月の数値になっているが、統一すべきではないか。	学校の統計では、5月1日を基本としている。計画書においては、解かりやすく4月1日で示している。4月と5月では、市内全域で1～2名の差が出ることもある。
平成28年の数値について、予想数値ではないか。市は何も人口増対策を講じないのか。	市としても、企業誘致など人口増施策を講じている。計画書の児童数は平成22年現在の生まれている子どもの数で作成している。予測数値であるとの指摘の通りである。
情報は市のホームページにあるということだが、回覧板を回すとか学校を通じて配布するとか、積極的な情報発信をして欲しい。	保護者会での質疑を、市のホームページに載せている。資料は膨大なもの。ホームページや市広報誌を通して周知したいので、是非ご覧いただきたい。

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
小学校がなくなると地域が寂れる。今回統合しても、また児童が少なくなると次の統合が来る。小中連携校など考えて小学校を残そうとは考えなかったのか。	検討委員会でも様々な意見が出た。川根小学校の集合学習の提案については、これまで出ていなかったため、検討し試行している。学校は地域のカルチャーセンターであり、なくなると地域が寂れる意見もあるが、地域で知恵を絞っていただき、地域のまちづくりの活動拠点など活用方法を考えていきたい。
準備委員会の構成は。各町単位か。地域の声を通るような委員会にして欲しい。	各町単位。新しい学校を作っていくことになるので、統合前のそれぞれの学校区単位で、それぞれの保護者代表、地域代表、行政、学校が一緒になり構成するように考えている。

【説明会に関すること】

意見・質問	回 答
説明会で、市民・保護者は意見を言っぱなし、教育委員会も言っぱなしで終わっている。出された意見について教育委員会ではどう検討したかの回答がない。説明会でどんな意見が多いとの説明もない。	今年度は、市が作成した計画の周知を図る年度と位置付けている。説明会で出された意見は、市のホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。 説明会での主な意見としては、通学に関する意見。スクールバスや通学費の補助金についての質問・意見が多い。また、統合校の選考に関する意見も多い。

【通学に関すること】

なし

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

意見・質問	回 答
統合されても理想の人数になっていない。今よりはベターであるがベストではない。 小規模校には小規模校の良さがあるが、統合するとこういう教育内容にしてどういう教育効果が出る とか、中学校との連携教育をどう するとか、具体的な教育内容について計画を示して欲しい。	統合後の教育効果・教育内容については、準備委員会で意見を聞きながら示していく予定である。現在考えている一つは、1町1小学校1中学校になるので、9年間というスパンで子ども達を育てていくことを計画したい。 現在も小学校の高学年になると、合同合宿や合同で中学校に体験入学をするなど、中1ギャップの解消に努めている。 統合にも小規模校にも、メリット・デメリットはある。教育行政を担う教育委員会として、なにもせず半数の学校が複式学級になる事態は迎えられない。
中学校は部活動でも学校の魅力が上がる。中学校の部活動について、先生が少なくなり指導ができなくなっている。地域の人材を活用するよう検討して欲しい。	中学校において部活動は重要な教育活動である。今後生徒が少なくなれば先生も少なくなる。中学校自体で部活動を維持していくことが困難な状況も考えられる。地域の力を借りて部活動をする必要が出る。

<p>各小学校には児童クラブなどが有るが、統合にあたって児童クラブはどうなるのか。</p>	<p>具体的には、準備委員会において担当部局も出て、意見を聞きながら協議していく。基本は、統合校の近くに希望する児童が入館できる規模のものが整備されるものと考えている。</p>
---	--

【その他】
なし

10. テーマ別懇談会

- ① 開催日時：平成23年12月11日（日）14：00～16：05
- ② 参加人数：250名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

なし

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
中学校が2校ということだが、統合校の場所についてどう考えているか。	中学校の統合には通学という大きな課題がある。道路網や寮まで考える必要もある。現在の計画では方向性を示している段階で、実際の配置場所等については白紙の状態である。小学校に目安がついたら、意見をいただきながら決定していきたい。

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

なし

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし

11. 可愛小学校区（吉田町：可愛地区振興会）

- ① 開催日時：平成 23 年 12 月 13 日（火）19：30～20：30
- ② 参加人数：11 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
八千代町では、早くして欲しいという意見だと聞いたが。	全体の総意としてそうなっているのではないが、そうした声が強いのも事実。 刈田小学校では複式学級が 2 学級あり、早くして欲しいとの意見も聞いたが全員ではない。
「郷野」という名称は小学校にしか残っていない。小学校がなくなると、さびしい思いになり少しでも長く置いて欲しい思いがあるだろう。	郷野地区での説明会では、大きな規模で勉強させたいという意見や、小学校は非常に良い建物であるという声も聞いた。
可愛・郷野は過去にも愛郷中学校として一緒にやった歴史もあり、一緒になり学校を支援する。 また、可愛地区は中学校統合の経験もあり、子ども達の未来のために協力して、スムーズに・スピーディに行おう。	意見として傾聴

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
現在も複式学級で学んでいる子ども達がいる。計画の推進期間が 5 年間となっているが、5 年では在校生のほとんどが卒業してしまう。できるだけ早いほうが良いのではないか。	周知期間・準備期間などを勘案して 5 年間とした。これまでの統合の例として 10 年もの月日を要している。円滑な統合を行いたい。5 年を目標に努力する。
美土里・向原を除き 4 町一斉での統合となるのか。	望ましい姿は 4 町一斉に揃う形が良いが、実際には、具体的な協議において温度差も

	あり、地域の実情に応じた統廃合になると考えている。期間内での一斉統合を目指したい。
市の行財政改革の一環として行われているが、統合時に2町で既に統合されているなら、元に戻るわけには行かない。合併したら6町同じ形でやらなくてはいけない。	意見として傾聴
呉市など早くから学校統合を行っている。安芸高田市は遅いのではないか。	遅いという意見も有るし、あせってやる必要は無いという意見もある。 計画を進めるため、説明し、次は準備委員会で皆さんに考えてもらうなど、道筋を立てて進めるのが方針である。
計画期間中の5年間にも、複式学級で学んでいる子ども達がいる。この間に教育委員会としてどういう対策を講じるのか、同時に説明してもらうと保育所保護者は安心する。	川根小学校において集合学習の提案を受け、高宮町では交流学习の試行を行う。小規模校の環境を少しでも工夫しようという取り組みがある。

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

意見・質問	回 答
スクールバスの対応について、地域を対象区域とするのか、単純に距離により対象区域を決めるのか。地域により決める場合、隣り合う児童が区域内・外になるなど不合理もある。	統合の具体的協議内容であり、準備委員会での協議となる。手法としては、そのような方法が有るが、保護者の意見をいただきながらの協議となる。現在児童の自宅等を地図に記入し、内部協議を行っている。通学費の補助金については、これまでの学校の統合経過の中で、学校ごとに、また町単位でもバランスが取れていない。この補助についても、今回の全市計画において見直したい。

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし

12. 来原小学校区（高宮町：来原地区コミュニティ連絡協議会）

- ① 開催日時：平成 23 年 12 月 14 日（水）19：00～20：40
- ② 参加人数：21 名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

意見・質問	回 答
<p>義務教育であるので、どこの市町も、小規模校で複式学級になっても存続させてきた。小規模校だから学力に支障が出ているデータでもあるのか。単に財政が厳しいから進められているのか。 大規模校が良いとは限らない。小規模校でも、地域とつながりを持ち、しっかりした勉強をすれば負けない。</p>	<p>学校規模については、国の基準で、小学校は 12～18 学級が望ましいとされている。規模については、過小規模校でも過大規模校でも良くないと考えている。教えたり教えられたりの先生と児童の関係や、学校集団の中で勉強したり、集団生活で子ども達が切磋琢磨し生きる力をつけさすことも考えなければならない。検討委員会でも、複式学級や人数の多い学級を視察に行かれたが、ある程度の人数が必要、20～30 人が良いということになり、市で吉田を除いて 1 町 1 小学校と決定した。</p>
<p>統合には相手校がある。相手校での意見の内容は。</p>	<p>相手校での意見（抜粋）を報告。 小学校保護者会での質疑内容については、市のホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。</p>
<p>他市町でも統合を行っているのか。統合しても、20～30 人までの規模がいつまで続くか心配である。次の統合が心配である。</p>	<p>北広島町や尾道市の状況を具体的に説明。 どの市町も、教育効果を高めるため議論している。複式学級では先生の直接指導時間が半分になるが、単式学級と同じ量を学んでいかなければならない。児童も先生も大変苦労している。 最新の出生状況をもても、出生児童は少なく、現状の児童数にはならないだろう。</p>
<p>統合計画の前に人口を増やす施策が必要ではないか。</p>	<p>広い意味では行政施策全てが人口増対策。 市ではとりわけ、結婚サポート事業、子育て・婚活支援団地、保育事業、多文化共生や、企業誘致、光ファイバ整備事業、未来創造事業などを強力に進めている。いずれ</p>

	も着実に成果を上げている。教育委員会としても、学力向上など特色ある教育・地域の魅力作りを行っている。国全体で子どもが減少する状況の中で最大限の努力を行っている。
--	--

【方針に関すること】

意見・質問	回 答
統合校について、選考した理由を示して欲しい。	市内の4町で統合を計画している。4小学校を新しくすることは財政状況で難しく、現在ある学校を統合校としたい。選考においては、全市で統一の評価項目を定め、それぞれ評価して総合判断を行い決定した。評価項目は、平成28年度の児童数、学区内の20歳代人口、統合後の学区から見た学校の位置、公共施設等との位置関係、5年後の児童数から見た総通学距離、通学路の安全性、校舎の老朽度、校舎の耐震性、教室保有面積、校舎全体面積、体育館の老朽度、体育館の面積、プールの老朽度、学校敷地面積、運動場面積、学校敷地の形状、自然環境条件、災害時の安全性である。校舎の老朽度、5年後の児童数などは来原小学校が良く、学校敷地や教室保有面積などは船佐小学校が良いが、図書館や診療所などとの位置関係など総合評価で船佐小学校を選考した。
統合校は変わらないのか。	統合校の選択を地域に委ねることは、考えていない。行政の責任として決定した。高宮町内の意見の全てが、他が良いとのことであれば考えさせていただくことも有る。
児童数が多いということは、先人たちの歴史のたまものである。単なる地理的な状況ではなく、地域社会にある学校として、児童数に重きを置き、統合校を決定したほうが良いのではないか。	1町1小学校を考えているので、通学する児童にとり負担が少ないことが良い。船佐小学校が町内で一番通学の均衡がとれる。学校の近くにハーモニー広場や図書館もあり、こうした判断をした。来原小学校も良い建物であり、利活用方法

	を検討いただきたい。
平成 28 年には国が複式学級にするということ、統合するのか。	資料の表は、人口推計による平成 28 年 4 月の学級の状態である。現在の国の学級編制基準では、隣り合う学年と合計して基準数以上の児童がいないと複式学級を組むことになる。1 年生を含む場合 9 人以上でないと単式学級にならない。1・2 年生の場合、合計 8 人までは複式学級になる。2 年生以上の組み合わせでは 17 人以上が単式学級となる。3・4 年生の場合、合計 16 人までは複式学級になる。
平成 28 年 4 月に、統合校の高宮小学校が開設されるのか。	統合は、保護者・地域の合意を得て十分準備をして進める。

【説明会に関すること】

意見・質問	回 答
来原小学校は統合対象となっているため関心が高い。説明会に小学校保護者や保育所・未就園児童の保護者が来ていない。将来のことであるので、保育所・未就園児童の保護者に周知・説明をすべきではないか。	小学校保護者には、5 月の市 P 連への説明を皮切りに、全ての小学校で説明会を終了した。11 月から地域への説明に向いている。保育所保護者には、保育所を通じ地域説明会への参加案内をしている。未就園児童の保護者に対しては、有線などで案内している。

【通学に関すること】

なし

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

意見・質問	回 答
統合すると通学区域が広域化するが、児童クラブの受け入れ態勢や送迎時間の対策などどう考えているか。	児童クラブ・通学・跡地の利活用などの具体的な項目は、合意形成後の準備委員会で、保護者・地域・学校・市長部局・教育委員会をまじえての協議となる。基本は、統合

	校の近くに希望する児童が入館できる規模が整備されるものとする。広域化による開館時間の延長については、準備委員会の中で意見を出していただき協議することとなる。
--	--

【その他】
なし

13. 吉田小学校区（吉田町：丹比地区振興会自治懇談会）

- ① 開催日時：平成23年12月17日（土）14：00～16：10
- ② 参加人数：32名
- ③ 質問・意見の概要

【全般に関すること】

なし

【方針に関すること】

なし

【説明会に関すること】

なし

【通学に関すること】

なし

【跡地利用に関すること】

なし

【学校統合の具体的事項に関すること】

なし

【その他】

なし